

## 久しぶりの富士山登頂報告

【山城】 富士山

【日程】 2016年8月6日（土）～7日（日）

【メンバー】 菊池（67才）単独

【行程】

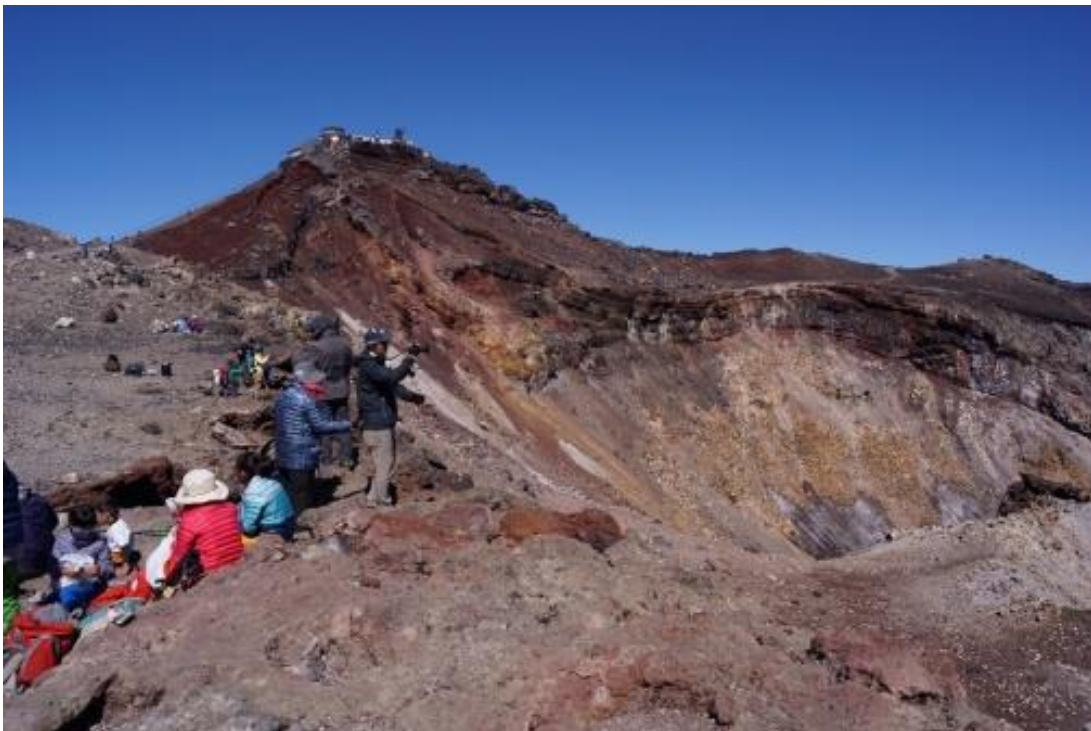
6日 千葉（千城台駅）5：50－9：24 御殿場―バス―水ヶ塚公園（標高1400m）11：50―須山登山道―16：00 新6合目宝永山荘（2490m）（泊）

7日 宝永山荘3：00―富士宮登山道―9：05 山頂―御殿場登山道―宝永火口―13：00 宝永山荘―富士宮5合目―バス―水ヶ塚公園―バス―御殿場―19：43 千城台駅

交通費：千城台駅―御殿場 約3000円×2、バス：御殿場駅―水ヶ塚公園往復1750円、富士宮5合目―水ヶ塚公園 1150円 計9000円程度

【目的】

1. 久しぶりの富士山登頂
2. 一合目からのアプローチ
3. 盛夏の富士山をいかに楽しむかを模索



・富士山登頂は11回であり、最後は61才の2010年であったがこの年には、山スキーで2回、ハイイクで一回の計3回の登頂を果たしている。

[http://chibayama.sakura.ne.jp/yamaski/userdata/20110821\\_fujirecord.pdf](http://chibayama.sakura.ne.jp/yamaski/userdata/20110821_fujirecord.pdf) その後長野

県信濃町勤務の 4 年間と昨年にも山スキーで毎年のように通っていたが、体力の減退などで登頂を果たしていなかった。

昨年、新田次郎の「芙蓉の人」を読んでみて御殿場駅からの富士山アプローチ、とりわけ一合目からの登頂に興味を湧いていた。

激込で何の興味が湧くのか疑問である盛夏の富士山登山は、小生の登山計画には組み込まれなかったが、今年は北アルプス縦走のトレーニングも兼ねて、久しぶりの登頂を狙って一合目の水ヶ塚公園からの初体験夏富士登頂を目指した。

天気が安定しない前週をキャンセルし、好天の 8 月第一週の富士登山、ナンバープレート 3776（富士山の標高）の愛車を今回は使用せず、単独でもあり公共機関の利用は案外快適であった。

・トレーニングの目的もあり、防寒衣服・大量の水などかなりの重荷を担いでのスタート林間の静かな須山登山道は快適であり、一気に惚れ込んでしまった。下山中の数組のお会いし、言葉を交わしてみると、皆さん 5 合目以下を楽しんでいるとのこと。紅葉の時期に五合目から下るのも楽しそうであり、今年の秋には須走 5 合目から和製「グランドキャニオン」を見学して下ることを心に誓った。

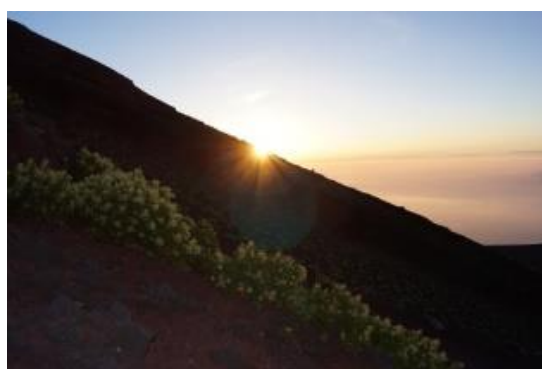
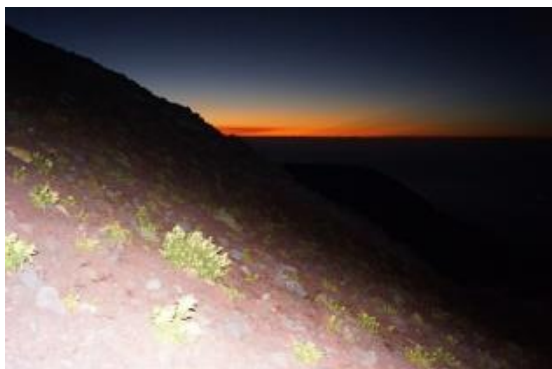


一日目の標高差 1100m をゆっくり楽しみ。終盤近くになると、赤味がかった雌株のオンダテの向こうに、迫力の宝永山頂上を撮影できた。富士宮 5 合目への林間の水平道を行くと、最近、クマが出没したらしく看板が掲げられており、我一人、鈴を強く鳴らしながら通過



した。午後4時頃宝永山荘に到着、早速の生ビールは格別であった。

・不要な荷物を小屋にデポ、日帰りピストンにしてはやや重い荷物を担いで3:00に出発した。ご来光を頂上で楽しむ多くの登山者は8合目以上の小屋に宿泊しており、9合目には320人の超満員であったとのこと。若い登山者グループ数組に追い抜かれたが、序盤は静かである。夜間かなりの強風であったが風は弱まり、時々強めの風が吹いてくる程度である。スタート時は満点の星と相模湾岸の夜景が美しく眺められた。7合目付近に来ると徐々に夜明けの準備が始まった。



青みがかった東の空が赤味を帯びてくる。7合目の小屋ではまさにご来光に歓声が上がっていた。まだ暗闇の中に、ぼっと浮かび上がるオンダテの群落とご来光の共演を写真に納めた。振り返るとなんと、影富士まで経験できた。

8合目、9合目と歩を進めていくと、ご来光を頂上で眺めた登山者が続々と下ってくる。渋滞するところもあり、更にゆっくりペースとなるため、呼吸を整えるのに都合が良い。外国人の多いのに納得し、軽装が多く、気分不良で下る外国人も散見された。

8合目の小屋の脇には雪渓が200mほど残っている。今年は雪が極めて少なかったが、それ



でも窪んだ地形の急斜面に残っているのだ。山スキー仲間を案内して、何回も登頂しこの雪渓を滑走したのだと懐かしい。登頂山スキーの最後は6年前の61才の時である。もう一度、登頂山スキーを実現させたいと、この数年目論んでいるが、夢の夢か??? 60歳前は4時間半くらいでスキーを担いで登頂できたのだ、お鉢の中まで滑ったのだと懐かしく、感慨にふけりながら最後の詰めにより呼吸を乱さないように頑張った。今回は約6時間で登頂、山頂は大勢のハイカーで賑わっていた。



・剣が峰を眺めて記念撮影、お鉢巡りは割愛、急斜面を下る往路は辛いため、御殿場ルートを選択、宝永火口経由で下山することとした。

8月第一日曜日は御殿場駅から富士山頂までの駅伝大会が開催されている。午後8時に御殿場駅を130チームが出発、トップは11時少し前に最後の急斜面を省エネ体勢で着実な足取りであった。トップを含め自衛隊チームが多く、強い。多くの自衛隊員が大会のお手伝いをしていた。



宝永山の近くなると、砂礫の積もった登山道、クッションが気持ちよいが、小さな砂礫がブーツに入り込み痛い。我慢して何とか宝永火口まで下って最後の休憩をとった。無風の灼熱の太陽の下、山荘への最後の登りに



気合を入れた。

13：00 頃、宝永山荘に到着、預けた荷物を受け取り、生ビールを他にしみながらしばし談笑した。

5 合目レストハウスで汗を拭き、ティーシャツを着替えて帰路に就き、わが家には 8 時頃に帰宅できた。目的を達成できた盛夏の富士山登山であった。